令和７年度　自己評価及び学校関係者評価書

学校法人　光明学園
認定こども園
光　明　幼　稚　園

１．基本目標・基本方針

●「たくましい心　育てたい」を教育目標とし、伸びる力と可能性を子どもの発達に応じて引き出す指導

上記の教育目標に基づいて、本園は、“知育・徳育・体育・食育”をバランスよく７項目を掲げます。

１．健康でいきいきした子ども
２．感情の安定した子ども
３．意欲的に何でも自分でしようとする子ども
４．思いやりの心を持ち皆と協力できる子ども
５．経験を活かしてよく考える子ども
６．正しい感情表現ができる心情豊かな子ども
７．粘り強く頑張る子ども

２、学校評価の具体的な目標及び計画

幼稚園の教育課程の内容を再度確認し、研修への参加、園内研修、教職員の共通理解を図り、教育の質を高めていく。また、計画については保護者のニーズや地域とのつながりを確認することで、本園としてのビジョンを明確化し、幼稚園が今後担う役割について検討する。

３、自己評価に対する学校関係者評価

評価項目	取組状況
行事の計画･実施状況は安全に行われているか	保護者の方が参加される行事は、収容人数の関係上一部の行事については制限を設けざるをえなかったが、安全に実施できた。運動会においては熱中症対策の面から、昨年より一週間遅らせて実施した。初めて２歳児を受け入れた行事となったが、どの学年及びクラスにおいても日頃の練習の成果が発揮出来た発表となった。良いところを褒めて成功体験がたくさんできるように心掛けた。行事のお知らせでは文章だけではなく絵図なども折り込み保護者により解かりやすく伝わるように努めた。
安全･衛生点検に心がけているか	インフルエンザ、胃腸炎の流行もあり、感染症防止の為、換気や空気循環・消毒を徹底して行っている。熱中症予防対策として、こまめな水分補給を促すようにし、運動会前はスポーツドリンクの持参も認めるなどの配慮をしている。防犯ラインを二重構造にし、より安全に園生活を送れるようになった。職員の防犯教室の実施など危機管理の徹底を目指す姿勢が取り組みから見受けられた。
地域社会とどのように関っているか	緑地公園の花の植え付けや、大泉学園の入学式に参列、生活科の授業の協力など、沢山の関わりの機会を持つことができた。緑地公園からチューリップの球根をいただき子どもたちが育てている。お世話をすることで身近な草花に興味を持ち、活動に参加したことで地域の方と喜びや嬉さを共感でき、情操教育に繋がっている。６月には堺北警察署にて「ひまわりの絆プロジェクト」に参加した。命の大切さや交通ルールを学ぶとともに地域の方の見守りやご協力により園生活を送ることができて

	いることを実感した。幼少の接続をスムーズに行うため。大泉学園に年長組担任が１年生の授業見学に行き、年長児は合同避難訓練、学校見学に参加し１年生との交流を図った。
安全な環境構成（施設・設備の安全や防犯）を行っているか	防犯対策を強化する為、不審者が駐車場から園庭へ侵入できないようにフェンス取り付け工事が令和 7 年 5 月に完了した。セキュリティを高めるために 9 月より AI 顔認証システムを導入した。園内では来園者には来園証をつけること、保護者には保護者証を身につけることを徹底し、誰が見ても外部から不審者が入ってきていないか分かるような体制作りを強化した。 熱中症対策の為　日差しが強い保育室に日除け防止ブラインドを設置し、遊戯室前廊下に日除けシートを設置した。
幼稚園は教育活動や子どもの様子を家庭に分かりやすく伝え、連携がとれていたか	園だよりや連絡帳・電話で密な連絡をとれるように引き続き務めた。手紙類の発行は保護者の方からの要望も踏まえアプリ配信に変更し、利便性が高まった。毎月、発行している学年だよりをクラスだよりに変更し、保護者によりクラスの状況が伝わるように写真を載せるなど可視化しアプリ配信している。引き続きホームページ、インスタグラムにも幼稚園の様子を公開・投稿している。園児の活動や表情をリアルに伝えられたことは保護者アンケートでも高い評価であった。今後も保護者に安心できるような伝え方・話し方・意思疎通が図れるように職員の指導も進めていく。 日頃から送迎の時間などには保護者に声をかけたり、バス通園児に対しても、連絡帳や電話で連絡をこまめにする等、話が出来る環境を心掛けている。 全職員にも、保護者からの意見は、どんな些細な事も園長・副園長・主任に報告するように周知しており自己評価でも高い結果となった。初期対応の大切さや教職員の共通理解を徹底し、保護者・園児ともに安心して通える環境を整えている。
記録の点検・登降園確認を実施し、子どもの安全が守られているか	子ども達の日常の保育記録や行事などの記録や反省は、保育を評価・点検し、次の指導計画を立てることや、子どもに関する記録は必ず園長が目を通す事にしている。目的に合わせて、行事等の反省内容を検討し改善が必要な箇所は改善していった。 子どもに関する情報は、鍵のかかる安全な保管場所を確保している。 れんらくアプリでの登降園管理をし、連絡なく登園時間になっても登園していない場合は、速やかに所在の確認をするようにしている。バス通園の園児については、置き去り防止ブザーの活用と乗降車時の人数点呼を 2 重にチェックする体制を整え、降車忘れ防止を徹底している。 遠足等でスクールバスを利用した際も同じ対応をとっている。
こども園に移行し、変化した部分についての対応はできていたか	2 歳児の受け入れの対応としては、乳児保育経験が豊富な職員の採用をし、環境整備に努めた。一年を通して安定した保育の提供ができた。週 5 日の給食提供の実施となった。1 号認定であっても希望すれば 2・3 号認定と同様の回数の提供が受けられることは保護者の働き方に沿った対応として好評であった。預かり保育のおやつも手作りを一部導入した。今後もアレルギー対応・栄養面で子どもの身体にとってより良い食事の提供をしていきたい。

４、今後取り組むべき課題（自己評価について）

課　題	具体的な取り組み方法
子どもが主体的に遊びに取り組めるように考慮する	失敗しても再度挑戦出来るような環境づくりを行う。支援が必要な園児の有無に関わらず「視覚」で伝えるなど活動が円滑にすすむよう工夫する。知育教材の指導などすぐに手を貸さず子どもが自分で解決しようとする時間を大切にし、指示や手見だけの指導にならないように指導方法を園での研修や保育者の資質を高めるための情報共有をより一斉活発にしていくように努める。 時間的余裕を持って活動に取り組めるようにカリキュラム、マネジメント能力の向上する取り組みを考え実践していく必要がある。子どもの発見や発想を認め、肯定的な言葉をかける。
計画性を持った保育計画	自己評価では、子どもの興味・関心に合わせた計画に不安がある職員が多かったので、子ども１人１人の身体の発達や言語面・社会性、日常の些細な興味を見逃さず観察し、月案・週案・保育日誌等の反省を活かし計画を立てる。園全体や学年での、共通理解・意見交換なども積極的に行い活動や行事の計画を立てる。

５、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
教職員保育の専門性向上を目指す	今年度は月に１～２回園内研修を行い、新たに学べた事や再確認出来た事が多くあった。幼児教育アドバイザー派遣事業にて、園内で音楽研修を行うことができ専門の講師より、歌う姿勢、口の開け方等子どもたちへの具体的な伝え方がわかり、すぐに保育に活かすことができた。楽器の基礎知識も再確認できた。今後も計画的な園内研修の機会を作っていきたい。自己評価では職員の保育の向上や計画の作成の意識が低い結果だったので、現職員の資質を高める為、園内研修の内容を精査しより一層深められるよう改善していく。講義を聞くだけではなくグループワークや体験を織り込むなどし、研修参加に意欲的に取り組んでいけるようにし、研修で得た内容をふまえ保育計画を立てるように努めていきたい。 保護者アンケートでは園の教育方針やカリキュラムの満足に対して高い評価結果であった。また参観や行事を通して子どもの成長を見る事が出来たという意見もあり、 次年度も園児や保護者に負担なくバランス良く開催できるよう配慮する。

６、今後取り組むべき課題

課　題	具体的な取り組み方法
小学校との接続に対する具体的な取り組み	幼保小架け橋プログラムについて堺市版から校区版への作成に着手し、大泉学園との関わりの機会を持つよう進めていく。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共通認識し教育の接続を図る。年長児が小学校の授業を見学する以外にも交流を深める機会を増やしていきたい。全園児で合同避難訓練に参加することも検討する。 小学校の先生方に園の見学をしていただくことが今年度は叶わなかったので調整して次年度は実施していきたい。
安全対策	登降園時に、安全に自転車で乗降できるよう駐輪場を増設する予定である。また、保育室の床のコーティングも実施予定であり安全な保育環境を作っていく。遊具、備品、保育室点検も定期的に行い変化に速やかに対応する体制作りに努める。

7、学校関係者評価

運動会では、日程調整や熱中症対策から自園で行い、2 日間に分け、1 日 2 学年のプログラムとし休憩室の設置や競技内容等を吟味し行った。子どもたちも慣れた園庭で行う事で、のびのびと発表する事ができた。
保護者への言葉遣いや身だしなみ・態度において高い自己評価であったが、砕けた物言いになったり、方言が強く出たりする場面も見られることから第三者の視点で自分自身を見つめ直し、いつでもどこでもどの相手であっても丁寧な言葉遣いが出来る様に指導していく必要性を感じる。駐輪場の整備など園児だけではなく保護者にも利便性の高い施設に改修を計画・進行しているので、今後も環境に配慮した園づくりに期待する。防犯面の強化による安全意識の向上が見受けられるので、引き続き対策について協議を深め、より一層安全性を高めていくことを望む。

8．財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。